第三十八日目

師　範：九州でもとくに長崎県の長崎や島原半島や，熊本県の天草諸島には，キリスト教を信仰する人々が多かった。
この地方を治める領主に新しく入ってきた有馬は，城をつくるための労働をしいたり，重い年貢をかけてきた。

さらにキリスト教に対するきびしい取り締まりもおこなった。
１６３７年についにこの地方の農民たちはおよそ３万７０００人がまとまって，一揆を起こしました。原城の跡にたてこもり実質４か月にわたって幕府軍と戦いました。
以前の教科書では，キリシタンの反乱と見て島原の乱といっていましたが，研究が進んで，キリスト教への取り締まりだけに反対したものではなく，農民たちの一揆とみるのが正しいといわれるようになりました。
島原・天草一揆というようになりました。一部の教科書では島原・天草の乱としているものもあります。

１６３７年　島原・天草一揆が起こる。

この年を覚えましょう。

コン太：うまくいきました。

「一路皆原城へ向かう一揆衆」

「いちろ」は１６を，「みな」は３７を読みかえました。

ペン太：このバージョンはいくつかできますよ。

「島原･天草から一路みな原城へ」

もっとかえると

「富む側に皆殺された島原･天草の人」

一揆参加者３万７０００人のうち３万人近くが殺害されたといわれます。
「とむ（がわに）」は１６を，「みな」は３７を読みかえるのです。

師　範：いろいろ工夫したものができました。
ようすが読みこまれていますね。
この島原・天草一揆に驚いた幕府は，絵踏みでキリシタンを発見するようにしました。またキリシタンを教えた者には賞金を出しました。さらにキリシタンでないことを寺の僧侶に証明させる制度をつくりました。